

杉山先生へのお礼

岡 本 多喜子

社会福祉を専門とするために明治学院大学および大学院を修了した杉山先生には、その後、社会学部付属研究所のソーシャルワーカーとして、大学院生のスーパーバイザーをしていただきました。

わたくしが先生に初めてお目にかかったのは、学部の非常勤講師をお願いするときでした。その後、先生は常勤教員として私達の仲間となりました。

社会福祉学科の実習では、私と同じ「高齢者分野」を担当していただきました。先生に実習をご担当いただいた当時は、今以上に高齢者分野の実習を希望する学生が多くいました。先生に来ていただく前には五〇名の学生の配属手配をしていました。高齢者分野の中で担当を分け、杉山先生には「在宅系・デイサービス施設や地域包括支援センター」での実習を希望する学生を主に担当いただき、私は「入所施設・養護老人ホームと特別養護老人ホーム」を主に担当いたしました。しかし後で判ったことですが、学生は担当分野で実習先を選んでいたというばかりではなく、杉山先生のお人柄で「在宅系」を選んでいたので、先生の学生へのまなざしはやさしさに溢れていました。その点はとても教えられました。

先生が赴任されて以降、国家資格である社会福祉士の受験資格要件が変化しました。そのような時に、先生は

杉山先生へのお礼

いつも適切なアドバイスをしてくださいました。新しい制度になって実習を開始するのは二〇一一年度からです。その前年度に先生が定年を迎えられることは、いつも先生を頼ってきた者としては心細い限りです。二〇一一年度は非常勤講師として、社会福祉学科の教育のためにご尽力いただけるところになっておりますが、その後もいろいろな相談に乗っていただきたいと思っております。

しかし先生にとっては、明治学院大学での年月はとても忙しい日々であったと思います。卒業生としてのお立場からみると、もっと学生に指導したいと思われたことも多かったと思います。これからのような学生が育つか、どうかいつまでも明治学院大学社会学部社会福祉学科を見守っていただければと思っております。

杉山先生、本当にお世話になりました。